

「フィールドワーク」科研会議 第4回

(基盤研究(A) フィールドワーク方法論の体系化 - データの取得・分析・流通に関する研究 -)

松井 圭介

I 研究課題と進捗状況

1) 研究課題

松井の担当分担

H22～23 : A 「データの取得と管理」 : 先行研究の探索

H23～24 : C 「データベースの構築」 : データベースの構築と利用環境の整備促進

H24～25 : D 「データベースの高度利用, 公開と流通」 : 研究・教育への活用実験

2) 研究のテーマとねらい

① フィールドワーク方法論の検討と体系化の試み

⇒ 上記課題 A & C

「人文地理学・地誌学関連の学術論文・書籍（和文）から，フィールドワークの手法やデータ等に関する具体的な記述内容をサーベイし，フィールドワーク方法論の整理および体系化を図る。」

(方法)

(1) 日本における人文地理学・地誌学のフィールドワークの実態

「人文地理」「地理学評論」ほか人文地理学・地誌学に関わる主要学術雑誌に掲載されたフィールドワークに基づく学術論文をとりあげ，実際にそこで用いられているフィールドワークの手法について，データベースを作成する。

(2) 人文地理学的フィールドワークの批判的検討

人文・社会科学全般においてフィールドワーク論にかかわる書籍・エッセー・論文を収集し，人文地理学におけるフィールドワークの特徴を，他の諸分野との比較から，批判的に検討する。

② 筑波大学におけるフィールドワーク教育の整理と体系化

⇒ 上記課題 B & D

「筑波大学人文地理学研究室および比較文化学類において実施されてきた野外演習・実験実習・野外実験の実施にかかわる暗黙知のホワイトボックス化を図ることを通して，フィールドワークの実施と教育に関するデータベースを構築する。具体的には，「人文地理学野外実験」（大学院）および「文化地理学野外演習」「実験実習」（比較文化学類）など，これまでに自分が直接参加してきたフィールドワークにかかわる研究・教育活動のテキスト化を図る。」

(方法)

(1) フィールドワークの実施方法にかかわる可視化

事前準備，現地での指導，事後処理，報告書作成等のマネジメントにかかわる部分に関して，テキスト化を図る。

(2) フィールドワークの実践（野外実験）にかかわる可視化

「地域調査報告／地域研究年報」をテキストとし、研究テーマ（目的）とフィールドワークの実践（実施方法や調査項目、聞き取り票やアンケート票など）および成果の表現（論文構成）や分析結果を整理する。

- 何を調査・記述し、何を明らかにしてきたのか。
- 共通する事象と変化する事象。

(3) 筑波（大塚）のフィールドワークの検証

豊富なフィールドワーク経験をもつ研究室の先達への聞き取りを通して、フィールドワーク方法論からみた筑波（大塚）流の人文地理学史を検討する。

→pending（アイデアの段階）

II 中間報告書の構成

松井圭介・兼子 純：

「大学院教育におけるフィールドワーク教育の実践と課題ー筑波大学人文地理学・地誌学教室の事例ー」

論文構成：

- I はじめに
- II 大塚の地理とフィールドワーク教育への関心
 - 1) 地誌学と臨地研究
 - 2) 人文地理学における野外巡検の姿勢
 - 3) 自然地理学における野外巡検の姿勢
- III 筑波大学におけるフィールドワーク教育
 - 1) 野外実験・実習カリキュラム
 - (1) 生命環境科学研究科
 - (2) 人文社会科学研究科
 - (3) 人間総合科学研究科
 - (4) 教育研究科
 - 2) 野外実験・実習の歴史
- IV フィールドワーク教育の実践と成果
 - 1) 野外実験の事前準備
 - 2) 野外実験の実践
 - 3) 野外実験の成果
 - 4) 野外実験の課題
 - (1) フィールドワークの安全支援と体制
 - (2) 大学院教育をめぐる環境変化
- V おわりに

